

# 日本語能力試験にチャレンジ!!

昨年12月に実施された日本語能力試験で、ICOのベトナム人人材が快挙を成し遂げた。

- ① 留学生1名：N1満点合格
- ② 技能実習生5名：N2合格
- ③ 技能実習生14名：N3合格



日本語能力試験 JLPT Japanese-Language Proficiency Test

日本語能力試験公式ウェブサイト (https://www.jlpt.jp/) より



月刊

発行所  
株式会社ICO Japan  
東京都豊島区東池袋4-8-7  
ココサイビル3階  
電話：03-6903-5646

国際交流基金と日本国際教育支援協会が開催する日本語能力試験は、N1からN5までの5段階あり、毎年7月と12月に日本と海外で実施される(2021年は7月4日と12月5日)。

外国人専用の試験と思われがちだが、受験資格は母語が日本語でないことであり、日本国籍の有無には関係ない。また年齢制限もない。N4は特定技能外国人の資格要件となっているが、最難関のN1ともなると、日本人が受験しても半分は不合格になると言われている。

今回、ICO Japanの日本人スタッフが試験に挑戦した。

N1の試験は下記3科目で構成され、3科目合計の得点が100点(180点満点)で合格となるが、科目ごとに基準点(19点)をクリアする必要がある。

科目	試験時間	満点	合格点	基準点
① 言語知識 (文字・語彙・文法)	110分	60点	3科目合計	19点
② 読解		60点		19点
③ 聴解		60分		60点
合計	170分	180点	100点	

実際の試験は受験できないため、「JLPT日本語能力試験 ベスト模試 N1」(株式会社ジャパントイズ出版発行)という模試問題集に挑戦した。聴解の問題は

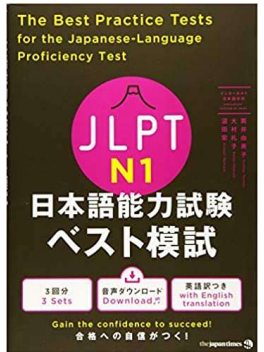
音声データをダウンロードし、試験時間も実際の試験に合わせた。

結果は3科目合計で174点であった(ほっ!)。

言語知識(文字・語彙・文法)は正解が分かりやすいのだが、読解は日本人でも迷う問題が多く、聴解は集中力を維持することが難しい。単に日本語を学習するだけではなく、専門の試験対策で訓練する必要がある。

下記URLでN1のサンプル問題に挑戦できるのでお試しあれ。

<https://www.jlpt.jp/samples/forlearners.html>



©株式会社ジャパントイズ出版

## 特定技能1号在留外国人数発表される

特定技能1号在留外国人数 (2021年3月31日現在)

出入国在留管理庁から2021年3月末現在の特定技能1号在留外国人数が発表され、在留者数は22,567人となった。2020年12月末から6,904人増加したが、そのうち5,749人(83.3%)は技能実習からの移行であった。

国別では、依然ベトナムが14,147人でトップであり、全体の62.7%を占めている。

特定技能制度がスタートして2年が経過したが、5年間の受入人数目標である345,150人の6.5%に留まっている。制度が当初なかなか浸透しなかったことに加え、コロナ禍の影響も大きいと考えられる。コロナが早く収束してくれることを祈るばかりである。

在留者数の詳細は下記URL参照。

[http://www.moj.go.jp/isa/policies/ssw/nyuukokukanri07\\_00215.html](http://www.moj.go.jp/isa/policies/ssw/nyuukokukanri07_00215.html)

国名	人数	割合
ベトナム	14,147	62.7%
中国	2,050	9.1%
インドネシア	1,921	8.5%
フィリピン	1,731	7.7%
ミャンマー	959	4.2%
タイ	572	2.5%
カンボジア	569	2.5%
ネパール	182	0.8%
その他	436	1.9%
合計	22,567	100.0%